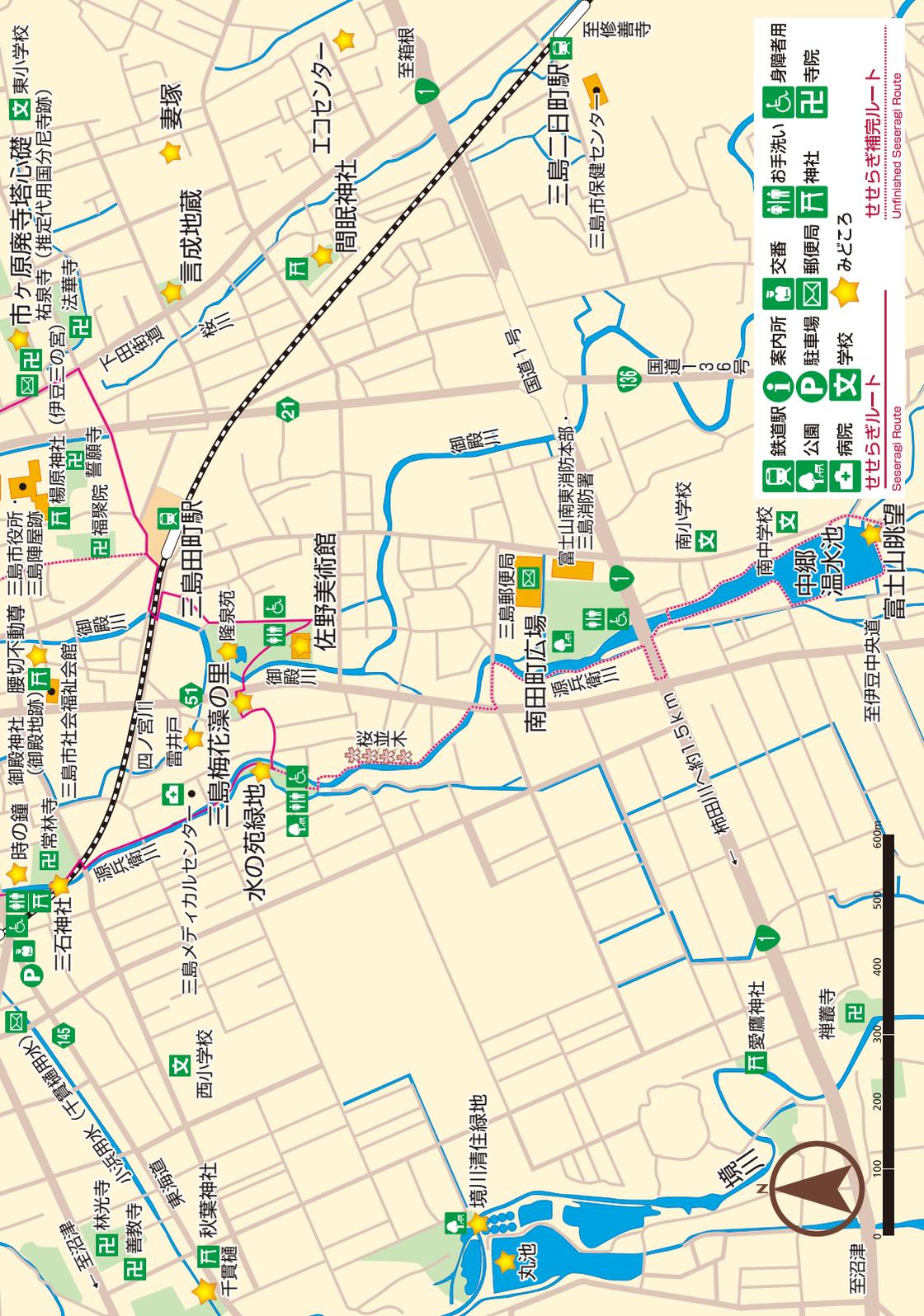


三島ぶらり散策





至沼津
至伊豆中央道
至箱根

市ヶ原康寺塔心礎
東小学校
祐泉寺 (推定代用国分尼寺跡)
法華寺
市ヶ原神社 (伊豆三の宮)
福聚院
誓願寺

腰切不動尊
三島市役所
三島陣屋跡
御殿神社 (御殿地跡)
三島市社会福祉会館
三島市社会福祉会館
三島市社会福祉会館

時の鐘
御殿神社
常林寺
三石神社
三石神社
三石神社

林光寺
善教寺
秋葉神社
千貫樋

妻塚
言成地蔵
間眠神社
エコセンター
至箱根

三島田町駅
隆泉苑
佐野美術館
水の苑緑地
三島梅花藻の里
雷井戸
三島メディカルセンター
西小学校

三島郵便局
南田町広場
源兵衛川
南田小学校
南中学校
中郷温水池
富士山眺望

境川清住緑地
丸池
愛鷹神社
禪叢寺

至沼津
至伊豆中央道
至箱根

- 鉄道駅
- 公園
- 病院
- せせらぎルート
- 鉄道の駅
- 公園
- 病院
- せせらぎルート
- 案内所
- 駐車場
- 文
- みどころ
- 案内所
- 駐車場
- 文
- みどころ
- 身障者用
- お手洗い
- 神社
- 寺院
- みどころ

せせらぎ補完ルート
Unfinished Seseragi Route

せせらぎルート
Seseragi Route

至沼津
至伊豆中央道
至箱根



このガイドブックは私たちがお客様をご案内している内容に沿って作成しています。

これからも「人と人とのふれあいを大切に」の会の原点をモットーに三島の魅力を訪れる多くのお客さまに紹介していきたいと思っています。

三島市ふるさとガイドの会 会員一同

ページ	内 容
2	せせらぎマップ
4	目 次
5	三島駅
6	楽寿園
8	蓮沼川と千貫樋
9	本覚寺と伊豆国分寺跡
10	源兵衛川と中郷温水池
12	三島梅花藻の里、境川清住緑地
13	佐野美術館、隆泉園
14	下田街道界限
16	三嶋大社
18	三嶋暦と三島茶碗
19	桜 川
20	白滝公園…搗屋(つきや)の道
22	鎌倉古道
24	菰(こも)池公園
25	浅間神社から三島駅へ
26	三島のむかしばなし
28	花ごよみ
29	三島散策コース
30	みしまグルメ・買物マップ



市の花 (ミジマザクラ)

昭和35年(1960)に国立遺伝研究所の竹中要博士の研究によりソメイヨシノの実生より生まれ命名される。昭和45年(1970)の市制30年を記念して市の花となる。



市の木 (イチヨウ)

市の花「三嶋桜」とともに昭和45年(1970)に市の木に制定される。現在、教育・文化施設がある文教町のイチヨウ並木は、その代表的な存在となっている。



市の鳥 (カワセミ)

市制60周年を記念し、平成13年(2001)に市の鳥に制定。大変姿身の美しい鳥で飛ぶ宝石とも云われ、きれいな水辺に棲む。市内では楽寿園や源兵衛川などで見かけられる。

三島駅

丹那トンネル開通で東海道線は御殿場経由が熱海経由に変わり、昭和9年（1934）12月1日に三島駅が開業しました。御殿場経由だった頃の三島駅（現在は御殿場線下土狩駅）に対して新駅と呼ばれました。昭和44年（1969）新幹線の三島駅停車に伴い北口が誕生しています。南側正面の駅舎の屋根は裾を引く富士の姿をイメージしたものです。



三島駅は伊豆への玄関口であり、また新幹線を利用する首都圏への通勤・通学圏でもあり乗降客は年を追うほどに増加しています。駅前整備が三島市の街中がせせらぎ事業の一環として平成15年度に完成。小さな水辺、木陰、そこにはベンチがあり老若男女を問わず憩いの場所となっています。

古今伝授のまち

南口駅前ロータリーの入り口には【古今伝授のまち 三島】の碑があります。

古今伝授とは

古今和歌集の解説・解釈を伝えたもので、平安時代末、藤原基俊から俊成・定家と代々二条家に伝えられ、次いで東常縁（とうのつねより）に伝わり、宗祇（そうぎ）に伝授されたことによって成立した歌の道の宗匠を示すものです。宗祇はこれを三条西実隆（さねたか）他の三流に伝え近世末まで受け継がれました。（歴史の小箱 第157号より）

宗祇への古今伝授は文明3年（1471）正月から4月初めまで三島で、6月から7月は三島または東常縁の本拠地、郡上（岐阜県）で行われたといわれます。この三島滞在中の3月27日に師常縁の子息竹一丸の病氣平癒と平和を願い三嶋大社にて「三島千句」を独吟しました。

楽 寿 園



明治維新で活躍した小松宮彰仁親王の別邸として明治23年(1890)に造営。その後、昭和27年(1952)に三島市立公園となりました。広さ約75,000㎡(2.2万坪)で駅と隣接し、街の中心に位置しています。富士山から流れ出た溶岩の荒々しさ、うっそうと茂る年を経た樹木の落ち着きと湧水が醸し出す

静かな流れが見事に調和しています。昭和29年(1954)国の天然記念物及び名勝に指定されました。平成18年(2006年)歴史公園百選に指定されました。

楽 寿 館

1日6回、一般公開があり、内部を見学できます。明治時代の皇室技芸員(現在の人間国宝)の日本画家たちが描いた襖、杉板戸、天井などの装飾絵画の繊細さと優雅さに溢れる美しさに目をみはります。



小 浜 池

楽寿館の南面に広がる小浜池は大小の島があり、宮様が船を浮かべ優雅に楽しまれたそうです。この池の湧水が源兵衛川や蓮沼川となり市内へ流れていきます。



◎ 万葉の森

文学好きな方なら是非訪ねてほしい静かな散策コース。山部赤人や山上憶良、柿本人麻呂ら万葉歌人の詠んだ歌の傍らにはそれに因む草木が植えられ小川も流れ風情があります。

◎ 郷土資料館

歴史好きな方なら是非こちらの資料館へどうぞ。三島の歴史や民俗資料の展示、宿場で栄えた町並み、関東一円で広く使われた三嶋暦や後北条氏の山城山中城から出ました鉄砲玉、澄んだ水の利用から発展した染物屋など楽しい歴史の世界へ誘ってくれます。そのほかに年数回の企画展も催されます。



◎ 主な年間イベント

- | | | |
|--------|------------------------------|--------------|
| 1 ~ 3月 | 野鳥観察会
春の小品盆栽展
東部鉢花展覧会 | 雪割草展
洋らん展 |
| 4 ~ 6月 | えびね展
春のさつきまつり
羽蝶蘭・山野草展 | |
| 7 ~ 9月 | 水遊び広場
秋の動物ふれあい広場 | |
| 10~12月 | 菊まつり
秋季さつき展 | |

入園料 大人300円 30名様以上270円
15歳以下無料

開園時間 4/1~10/31 午前9時~午後5時
11/1~3/31 午前9時~午後4時30分

休園日 毎週月曜日(祝日の時は翌日) 12/27~1/2

蓮沼川(宮さんの川)

小松宮別邸だった楽寿園から流れてく
ることから尊敬と親しみを込め「宮さん
の川」とも呼ばれています。昭和30年代
後半の高度成長期に水源の湧水が枯渇す
るという苦難を経て、このように穏やか
に水を蓄え、市にゆかりのある彫刻家た
ちの作品を楽しめる水辺の散策路に整備
されています。



蓮沼川から千貫樋

戦国時代この地を支配していた北条氏
と今川氏の婚姻による掣引出物として豊
かな伊豆の国の水を贈ったといわれてい
ます。蓮沼川は三島広小路駅辺りから下
流は小浜用水と名を変え西に流れ千貫樋



あの人・この人

昭和6年(1931)に三島に
生まれました。詩人。朝
日新聞に『折々のうた』
を連載するなど文芸評論
でも活躍しました。文化
勲章受章。三島市名誉市
民。



大岡 信さん

を経て、駿河五ヶ村（現清水町）
の田畑を潤しました。

千貫樋の名前の由来は一説には
この水が江戸時代の石高で1千貫
の収穫に結びついたことからつけ
られたといわれています。この樋
は伊豆と駿河の国境の低地帯を高
架で横切っており、当時の土木工
事の技術水準の高さに感嘆します。

◎ 本 覚 寺

日蓮宗のお寺です。遠く奈良時代、ちょうど万葉集が編まれたころ、各地に国分寺が建てられました。本覚寺は当時の伊豆国分寺跡地に時代を経ること700年、

足利時代に建立されました。この寺を「おにっちゃんさん」と呼んでいますが、日蓮宗の本山、身延山久遠寺の法主になった日朝上人がこの寺の二代目住職として活躍したことに由来します。



◎ 伊豆国分寺跡

奈良時代の伊豆国分寺は広い寺域だったと伝えられていますが現在残っているのは高さ60mもあったという七重の塔の八つの礎石だけです。国の史跡として昭和31年(1956)に指定されました。この史跡指定を契機に寺名を



蓮行寺から伊豆国分寺と改称しました。開祖慈眼阿闍梨日義上人を慕いこの寺への参道は「阿闍梨(あじゃり)小路」と呼ばれ三島八小路の一つとして庶民に親しまれてきました。

源兵衛川



楽寿園の小浜池を水源とした源兵衛川は旧東海道を横切り、三石神社、時の鐘の横を南へ下ります。しばらくすると流れは二つに分かれ本流は中郷温水池に流れていきます。初夏の夜にはホタルをみることができる美しい流れです。楽寿園を出るとすぐ、川の中に木道などが設置され、流れに沿いながら歩くことができます。源兵衛川の名前

はこの水を水田に利用しようと考えた寺尾源兵衛の名に由来するといわれています。

水の苑緑地は川の中流部にあたり、苑内は緑に溢れ野鳥類も豊富で自然が多く残っており、湧水の湧く場所も数カ所ある憩いの公園です。川辺の散歩道、池、水飲場、藤棚、それにトイレ、ベンチなどが適度に配置され小休止できます。

源兵衛川的环境を保つために行政と市民の参加で河川の清掃やホタルの幼虫放流などの活動が活発に行われており、その優れた景観は静岡県都市景観優秀賞を受賞しました。日本疎水百選、平成の名水百選、世界灌漑施設遺産、世界水遺産にも選ばれています。



うなぎと三島

うなぎには三島の豊富な水が棲みよかったのでしょう、市内の河川に無数に生息していたことが古書に記され、昔の人々はうなぎを水神の使い、三嶋大明神の化身などと保護し、うなぎにまつわる伝説や言い伝えが残っています。いつのころからかそんなうなぎが人々の食するところになりました。澄んだ冷たい水にうなぎを数日さらし泥臭さを消し、余分な脂を除き身を引き締めてから調理にかかる伝統が今でも三島のうなぎ屋に受け継がれています。これが多くのお客さんにおいしいといわれる三島のうなぎの秘密かもしれません。

中郷温水池（なかざとおんすいち）

夏でも冷たい湧水はそのままでは稲の育ちが遅くなります。そのため水を温めてから農地に流す目的でこの温水池が造られました。ここから流れる4本の用水路が南に広がる豊かな農地を潤しています。

豊かな水辺は多くの動植物の環境にも適し、これらの生態を観察したり水面に映る富士を眺めたり楽しい散策ができます。

三島の南方に広がる田方平野は苺の栽培が盛んに行われています。この「伊豆苺」は、昭和初期の農業恐慌打開のため三島市玉川の堀井政吉氏の尽力で栽培に成功し普及しました。この偉業を称える苺頭功碑が温水池の畔に建てられています。

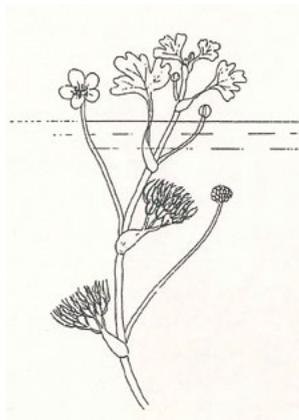


三島梅花藻（みしまばいかも）の里



ミシマバイカモは緑色のやわらかい糸のような細く裂けた葉（細裂片）をつけ、雄しべが黄色で花片が白い、梅の花に似た可憐な花が咲きます。また、切れ込みの入った幼い子供の手のひらのような1cmほどの浮き葉をつけるのが特徴です。

バイカモという植物は、日本だけではなく外国にも分布している水生植物ですが、ミシマバイカモは昭和5年（1930）に楽寿園の小浜池で発見されたのでこの名前がつけました。湧水ならではの清流に育つ植物で、静岡県
の絶滅危惧種に指定されてい



境川清住緑地

ミシマバイカモの生育していたところ。三島梅花藻の里からおおよそ1.5km、三島市の西のはずれ、清水町と接しているところにあります。ここは、昔からクボッタと呼ばれ周囲より少し窪んだところに湧き水が湧き、セミやトンボ、カワセミなど多くの生き物が観察できます。また、以前このあたり一帯で稲作が行われていましたので、教育の一環として子どもたちが3枚の田んぼで米づくりに励んでいます。豊かな自然環境の保全を図り、地域に親しまれる水辺空間が整備されている地区という評価を受け平成14年に静岡県都市景観優秀賞を受賞しました。



佐野美術館

佐野美術館は三島市出身の実業家佐野隆一氏により昭和41年（1966）に開館しました。

日本美術を中心に、刀剣・絵画・工芸・絵本原画など多彩なテーマの展覧会を、年に7回程度開催しています。コレクションは佐野氏の収集品を基礎とし、日本・東洋の優れた美術品を約2500件収蔵、常設展示室にて一部を公開しています。

富士の湧水を取り入れた回遊式日本庭園「隆泉苑」を併設しており、四季折々の趣を楽しむことができます。



あの人・この人

佐野隆一さん

明治22年（1889）三島市に生まれました。鉄興社を創立するなど実業界で活躍。勲二等端宝章を受章した昭和40年（1965）に、三島市名誉市民第一号の称号を受け、昭和41年（1966）に佐野美術館を設立。当美術館の他にも、市内小学校へプールや図書館、老人ホームや保育園等多くの施設を寄贈するなど、三島市に多大な功績を残しました。昭和52年（1944）逝去、享年87。正四位に叙せられ、勲二等旭日重光章を受章。



隆泉苑

佐野美術館に併設されている「隆泉苑」は、佐野隆一氏が両親の隠居地として昭和初期に造りました。佐野隆一の「隆」と、



こんこんと湧き出る「泉」から命名され、回遊式庭園と日本家屋（通常非公開）からなります。

富士の湧水を取り入れた庭園の心字池に清流が注ぎ、春にはしだれ桜、秋には紅葉、と四季折々の趣をお楽しみいただけます。美術館の開館時間中に散策できます。

○ 下田街道

三嶋大社の大鳥居を起点として、伊豆半島の真ん中を南北に縦断して下田に至る70kmの道のことをいいます。この街道は旧町名の市ヶ原、二日町が示すように京と江戸とを結ぶ東海道と交叉し、三嶋大社の門前町として栄え、物と人の重要な交流道路でした。頼朝や幕末に米使節ハリスが通った道としても知られ、街道筋には奈良時代からの長い歴史の1コマを担った名所旧跡が数多く残されています。

○ 法華寺

奈良時代の初めに建立された大寺院で代用国分尼寺となった大興寺の伽藍跡だと言われており、総国分尼寺が法華滅罪の寺法華寺ということから法華寺と改められ、慶長7年(1602)に曹洞宗の寺として再興され今日に至っています。なお、墓地内に大きな地藏尊があります。源頼朝が旗揚げ成就を祈願し写経を奉納した経塚で、前庭の腰掛石は頼朝ゆかりのもの、松の木は三島七木の一つとして残されています。

法華寺を出て下田街道を少し南に行くとこの寺の持仏であるお地藏さんを祀った言成地藏尊堂(→27ページで紹介しています)や、頼朝ゆかりの妻塚、間眠神社等の史跡があります。

○ 農兵調練場跡

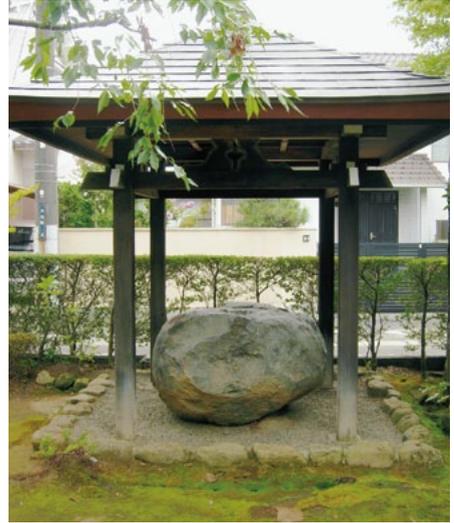
三島市役所の敷地の中に江戸時代末期、代官 江川太郎左衛門が農兵の砲術などの訓練を行った農兵調練場の跡を示す大きな石碑が建てられています。これに因んで♪富士の白雪やノーエ富士の白雪やノーエ…で始まる農兵節は今ではその踊りとともに三島の夏まつりに欠かせない郷土民謡になっています。



祐泉寺

この寺も大興寺の伽藍跡の一部を境内にして後世建てられたもので永禄11年（1522）に開山されました。

本堂正面右側に直径2mにも及ぶ大きな石が保存されています。白鳳時代に建てられた薬師寺式伽藍配置を持った大興寺の塔心基礎と推定され、当時の建築様式を知る上で大変貴重なものです。



ムラカミ屋（看板建築の家）

看板建築とは木造商店の前面をモルタルや板金で装飾した建物で、昭和5年（1930）の北伊豆地震の後、多くの商店がこの様式で建築されました。この内、大社町にある「ムラカミ屋」が国の登録文化財建造物になっています。



三嶋大社

伊豆一の宮として、古くから人々の信仰を集めている三嶋大社は、大山祇命（おおやまつみのみこと）と事代主神（ことしろぬしのかみ）の二柱が祀（まつ）られています。創建は不明ですが養老4年（720）に編纂された「日本書紀」に三嶋神の記録があります。

境内は約50,000㎡あり、社殿等はうっそうとした森に囲まれ梅、椿、桜と四季折々に美しい花が咲きます。また初詣には静岡県内でもっとも多くの人々が訪れます。

源頼朝が源氏再興のため百日祈願に通い成就したお礼に妻政子の父北条時政に命じて境内の整備改修をしました。その後人々の厚い信仰を受け続けこの様な神々しい境内となっています。歴史を伝える数々の貴重な史跡、文化財が境内に残っています。



金木犀

国の天然記念物の指定を昭和9年（1934）に受けました。樹齢1,200年と伝えられ秋に二回咲きその香りは二里四方に及んだと言われています。

名石、名木

頼朝が座ったという腰掛石、人や牛馬の交通整理に役立てたというたたり石、また三島七木で現存するただ一本の楠の大木、などが訪れる人々を静かに見守ってきました。

句碑、歌碑

松尾芭蕉の「どむみりと あふちや雨の 花曇」、若山牧水の「のずゑなる 三島のまちの あげ花火 月夜の空に 散りて消ゆなり」などがあります。

三嶋大社の主な年中行事

1月 1日 開運祈禱祭:この1年幸福でありますよう祈る斎行です。



- 1月 7日 田祭：お田打ちと呼ばれ五穀豊穡、天下泰平を祈ります。
 1月17日 奉射祭：世の邪悪を祓い、悪病を追い払う神事。
 2月 3日 節分祭：厄を祓い、開運を祈り豆まきが行われます。
 6月30日 大祓式（おおはらえしき）：茅の輪神事が行われます。
 8月16日 例祭：最も重要なお祭り。15～17日にかけて祭り一色になります。
 9月 木犀の夕：金木犀の香を楽しむということで期日は決めていません。
 11月15日 七五三祝祭：この日ばかりは可愛い紳士淑女で賑わいます。
 11月20日 恵比寿講祭：商売繁昌を祈り、各商店が境内に出店します。
 11月23日 新嘗祭：神々に五穀豊穡を感謝する祭。
 12月31日 大祓式（おおはらえしき）：1年間の苦悩や穢れを祓い清めます。

国 宝

「梅蒔絵手箱」

重要文化財

「太刀 銘 宗忠」「脇指 銘 相模国住秋義」
 「紙本墨書般若心経 源頼家筆 建仁三年八月十日」
 「三嶋大社矢田部家文書」592点
 「三嶋大社本殿、幣殿並びに拝殿」(建造物)

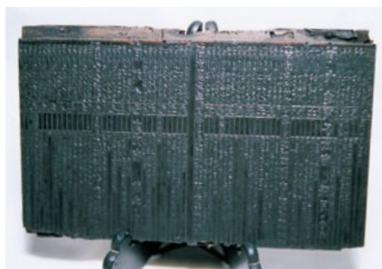
天然記念物

天然記念物:「三嶋大社の金木犀」

静岡県指定文化財

静岡県指定文化財:「田祭・御田打ち神事」

三 嶋 曆



現在は太陽暦ですが、130年ほど前までは月の満ち欠けに基づき計算する太陰太陽暦（旧暦）を使っていました。高度な天文学と数学の知識を必要とした暦を50代にわたり版行してきたのが三嶋大社の社家だった河合家です。奈良時代の780年ころ、京の賀茂より三島に移住。鎌倉時代以降明治時代初期にかけて三島で発行された関東地方の代表的な暦で、仮名で刷られた暦では日本一古いそうです。ノミで彫った山桜の版木に膠（にかわ）と墨を混ぜて塗りバレンで摺りました。16ページの綴り暦、一枚もの、巻き暦の3種類がありました。平成17年（2005）4月、三嶋暦や三嶋茶碗の展示をする三嶋暦師の館が開館しました。（TEL055-976-3088）

三 嶋 茶 碗

15～16世紀の朝鮮半島で焼かれた陶器（今の粉青沙器（ふんせいさき））の事で、その茶碗の文様が三嶋暦に似ていたため「暦手」「三嶋手」と名づけられました。侘（わび）、寂（さび）のある三嶋茶碗は、今から500年ほど前の室町時代末ごろから多くの茶人らに愛好されてきました。

現在日本各地の窯場で個性的な三嶋茶碗が焼かれ、三嶋茶碗文化振興会が蒐集・普及に尽力しています。また市内の陶器店には三嶋茶碗の展示コーナーを設けているところもあります。



桜川



三嶋大社から西へ県道を横切りますと南北に流れる桜川があります。静岡県まちなみ50選に選ばれた三嶋大社から白滝公園までの川に沿う柳並木の遊歩道には、四季折々の草花が咲く花壇に囲まれ、三島市ゆかりの文人の文学碑（井上靖、穂積忠、小出正吾、太宰治、窪田空穂、司馬遼太郎、若山牧

水、正岡子規、宗祇、大岡信、十返舎一九、松尾芭蕉）が建てられています。碑に刻まれた一節を声に出して詠んでみるのも気持ちのいいものです。この川の水は三島市の南に広がる農地への供給が主で、そのための堤防工事にまつわる悲しい人柱伝説も伝えられています。（→26ページで紹介しています）

湧水を集めて流れる澄んだ美しい川で、水辺を歩きながら元気よく泳ぐハヤの姿に思わず立ち止まって覗きこむこともあります。江戸時代、何も遮るもののないこの辺りから眺める富士山は裾まで雄大に広がり川面には逆さ富士も映ることから「水上（みづかみ）の富士」として三島八景の一つにあげられていました。

この遊歩道には三島八小路のうち上の小路、下の小路の二つがつながっています。三島は、大社を中心にして西の京と東の江戸、南の伊豆と北の甲斐に向かう街道が四方に伸び、発展してきた「四ツ辻の町」と言われてきました。この大街道に比べ三島八小路は毎日の生活に根づいた三島人の愛する道でした。

三島八景

- ①大社の群鳥、②水上の富士、
- ③間眠の夜雨、④賀茂川の螢、
- ⑤広瀬の秋月、⑥広小路の晚鐘、
- ⑦小浜山の暮雪、⑧千貫樋の夕景

三島八小路

- ①阿闍梨（あじゃり）小路、
- ②竹林寺小路、③桜小路、
- ④菅小路、⑤細小路、⑥金谷小路、
- ⑦上の小路、⑧下の小路

白滝公園



10,000年前に富士山が噴火し流れ出た溶岩は40kmも離れた三島まで流れてきました。三島溶岩流と呼ばれるこの溶岩は自然のすばらしい恵みを三島に与えてくれました。白滝公園もその一つです。ここで湧き出した水が滝となって御殿川に勢いよく流れ落ちている姿から「白滝」と名がついたそうです。緑豊かな自然林に囲まれ、たくさんのセミの声、魚を追う子供たち、訪れた人々の憩いの場となっています。また、深みのある澄んだ水が美しくありたいと願う女性たちに愛されたのでしょうか。園内には「富士の白雪朝日に溶ける三島女臍衆の化粧水」の碑があります。

めぐみの子

江戸時代に町火消しが使っていた竜吐水を男の子と女の子が両手でこぎ観光客を迎えます。その前に立つと「こんにちは、三島のおいしい水だよ さあどうぞ」と語りかけます。



搗屋（つきや）の道

大正時代頃まで白滝公園、桜川、御殿川一帯は豊富な湧水を動力源にたくさんの精米製粉用の水車が盛んに回っていました。白滝公園から御殿川に沿っての小径を「搗屋の道」と呼び、足湯ならぬ足水ができる縁台を置いたりして散策を楽しめるようになっています。



○ 圓明寺

搦屋の道と鎌倉古道が交わる一面にある日蓮宗のお寺です。三島宿の賑わいが偲ばれるかのように、切妻屋根の山門は樋口本陣の正門です。

境内には「圓明寺の孝行犬」として犬の姿像と墓碑があります。



○ 孝行犬のおはなし



江戸時代も終わりの頃、圓明寺の床下に母犬と5匹の子犬が住んでいた。住職日空上人は犬たちを可愛がり母犬を多摩（タマ）、子犬にも名前をつけて番犬としていた。ところが万延元年（1860）2月、子犬の富寺（フジ）が病気で死んでしまうと母犬も悲しみのあまり病気になってしまった。それを見た子犬の都留（ツル）と左登（サト）は母犬のそばを離れず看護していた。一方、登玖（トク）と摩都（マツ）の2匹は凍る雪の町へ走り出て、食物をもらって母犬に食べさせるのだった。こうしているうちに母犬もついに死んでしまった。すると4匹の子犬は3日3晩その傍を離れず、4日後に2匹が屍を守り、2匹が穴を掘って埋葬し、数日の間墓を守って孝養を尽くした。

日空上人はこれを見て、狗子仏心の発露と感嘆し塔を建てて供養してやった。やがて子犬たちも相次いでたおれ、上人は6匹のために石碑を建て名と命日を刻んで、その純情を表し、世の人の戒めとした。

時に江戸の絵師がこの話を錦絵にして刊行し大評判になったという。

（三島の昔話より）

推定平安鎌倉古道

平安の時代、富士山の大噴火によって足柄路が閉ざされ代わりに箱根路が京の都と関東を結ぶ道に利用されるようになりました。その後、源頼朝が鎌倉幕府を開いた際、この道は鎌倉に通じる街道として整備され、六十三の駅を持つ東西の交通の要となったのは建久5年(1194)のことといわれています。「いざ鎌倉」というときに武士たちが馳せ参じた軍道でもありました。「十六夜日記」の中で阿仏尼は三島の国府を出発しこの道を通って箱根越えをした、と記しています。

圓明寺前を通り赤橋を渡るこのあたりは平成2年(1990)に行われた古道の調査以来整備が進められ、人々の生活に密着した道と水の深い係わりを感じさせてくれる一帯に生まれ変わりました。清く澄んだ川とともに、ゆったりと時の流れるゆとりのある生活の雰囲気漂わせています。



駿豆五色橋

黄瀬川橋 (沼津市)

黒瀬橋 (沼津市)

青木橋 (三島市徳倉)

赤橋 (三島市中央町)

源平白旗橋 (三島市広小路町)

国庁跡

奈良時代に造られた国庁は、南は芝本町と本町の境の東西道路、北は楽寿園の南側、東は円明寺、西は源兵衛川辺りの2町四方の広さがあって、築垣(ついがき)で囲まれた役所だったと推定されます。



本陣跡

三島の宿には二つの本陣が相對していました。世古本陣は一の本陣といわれ、グルッペ辺りにありました。樋口本陣はこの本陣で世古本陣と向かい合って街道の南側、山田茶舗園のところに位置していました。世古本陣跡、樋口本陣跡のそれぞれのところに石の碑があります。世古本陣は尾張侯の、樋口本陣は紀州侯の定宿でした。

本陣とは・・・

江戸時代、街道を通行する諸大名、公家、門跡、公用の諸役人を休ませた高級旅籠。東海道五十三次の宿場には必ず本陣が設けられていた。

問屋場（といやば）跡

街の中心地 市役所中央町別館東側小路の入口に「問屋場跡」の碑があります。

三島は古く宿場町として栄えていました。慶長6年（1601）徳川幕府は交通政策として宿駅（宿場）を各地に決めました。三島の宿は東海道有数な大宿と認められて同じ年この場所に問屋場が設置されました。この施設は幕府の役人をはじめ街道を通行する公用の旅客と荷物を運ぶための人馬の調達を主目的としていました。

問屋場には問屋年寄り、帳付、馬指、人足指、飛脚賄い人、送迎役などの役目の人が置かれていました。その北側には人足部屋や雲助と呼ばれていた籠かき人夫の部屋がありました。

宿場は「人の流れ」と「たまり」を捌（さば）くところ。本陣が「たまり」の中心的存在とすれば問屋場は流れの「コントロールタワー」でした。当時 箱根、小田原に比較して交通量が多かった三島宿に一カ所だけの問屋場ですべてを賄っていたため、ここで働く役人や人足は相当数いたと思われます。



菰（こも）池公園

イネ科の水生植物マコモが辺りに茂っていたから、という言い伝えがあります。豊富な富士山からの湧き水とくぼ地の地形から一面湿地帯となっていて、人が住み始めたのは大正時代以降でした。現在は湧き水の一部が池となって公園として保存されています。



透き通るような美しさをたたえた水は三島の景観をもっともよく備え、子供たちの水遊びや憩いの場所として市民に愛されています。時には小魚を捕りに清流に棲むカワセミが見られ、カモなどの渡り鳥も優雅に泳いでいます。菰池の水は桜川となって白滝公園の湧き水も合流して南に向かって流れ下り、川筋は幾本にも分かれ、農業用水として多くの田畑を潤し豊かな実りをもたらしています。

菰池の西側に露出した溶岩に囲まれた目立たない窪地があります。ここが鏡池で



す。窪地のそこに溶岩樹型が見られます。鎌倉期以前、三嶋大社参拝者の「清めどころ」であったといわれています。参拝するために水面に写る己の姿を見て身を整える池、ということから鏡池といわれるようになりました。現在は写真のように豊水期にわづかな湧水が溶岩の隙間から流れ出る程度です。

浅間神社

浅間神社はかつて富士山に登る前に安全祈願を奉げる大事な社でした。三嶋大社の別宮であり木花開耶姫命（このはなさくやひめのみこと）波布比売命（はぶひめのみこと）の二柱を主神として祀っています。神社の地下水路から流れる湧水は湯水期の冬でも流れているときもある豊富さで、御殿川へ注いでいます。なお、神社の裏から楽寿園の中へ50m程、富士登山道が残っています。



愛染院跡

市民文化会館の東、三叉路になった道路の一角に富士山の噴火の際できた5mを越えるほどの大きな溶岩ドームが残されています。この辺り一帯に明治維新政府の神仏判然令とその後の廃仏毀釈運動で廃寺となった愛染院という大寺院があり、ここがその築山で今は石碑のみが残されています。



街中がせせらぎ事業では多くの表彰を受けました。

このような街並みを皆さん散策しませんか？

平成17年度 都市景観大賞「美しいまちなみ大賞」

平成17年度 国土交通大臣表彰「手づくり郷土賞」
ふるさと

その他 静岡県都市景観賞、毎日・地方自治大賞 奨励賞

三島のむかしばなし

狐の恩返し

昔、三島のある骨接ぎ医者の所に、骨を挫いた狐がやってきた。医者は可哀そうに思い治してやった。狐は大層喜んで「このお礼は必ずいたします。」といて帰っていった。

幾日かの後、その狐がやってきて、「今晚この間のお礼にご馳走したいので、私と一緒においでください」といった。そこで医者が狐について行くと、小浜山の方へ入っていった。そこには立派な座敷があり食べ切れないほどのご馳走が並んでいた。医者は喜んでご馳走になりながら、狐がこんな立派な座敷に住むはずがない。化かされたと思いながら、心覚えに柱に紙を貼って帰ってきた。

一方、その夜、竹原のある家で祝言があり、ご馳走が四人分足りなくなり大騒ぎしていた。

次の日、医者は不思議に思いながら小浜山に行ってみると、昨夜座敷の柱に貼り付けたはずの紙が松の木に貼り付けられていた。

桜川の人柱

白滝公園近くの桜川から、御殿川へ流水を落とす堰（水門）がある。

昔この堰と堤防を造るにあたり、水量が多くしかも水の勢いが強かったため、いく度造っても壊れてしまい、役人たちはほとんど閉口していた。

そんなある日のこと、ここを六部（行脚僧）が通りかかり「この難工事は人柱を立てれば解決します。人夫の中で襦袢の肩当てに手ぬぐいを用いている人がいるはずです。その人が人柱になる人です」と言った。

早速調べてみると、その通りの人夫がいたので、その人が犠牲となり工事が無事完成したという。それ以来三島っ子は手ぬぐいを肩当てにしないといい、堰門にはこの人夫の霊を弔う香華の煙が絶えることがなかったという。

言成地蔵

江戸時代の貞享4年（1687）春のある日、明石の城主松平若狭守直明の行列が三島の宿に差し掛かった時、二日町（今の東本町）に住む尾張屋源内の娘で6歳の小菊が行列を横切って前駆に捕り押さえられ本陣へ曳かれて行った。宿中大騒ぎとなり、問屋役人、町名主、更に妙法華寺の日迅上人を煩わして命乞いを為し、漸く聞き入れられたが、父源内が尾張藩の浪人であることが漏れ、日頃尾張候と仲の良くない明石候は、再び気持ちを変えて小菊を手打ちにしてしまった。この時、幼い小菊が手を合わせ「何でもお殿様の言いなりになりますゆえ命ばかりはお助けください」と繰り返し願ったが聞き入れられなかったという。

怒った父源内は箱根峠付近で待ち伏せし、明石候の駕籠に鉄砲を打ち込んだが、もぬけの殻だった。目的を果たせなかった源内は自害して果てた。

宿の人々がこれを憐れみ、小菊の霊を祀（まつ）るために地蔵堂を建て、言成地蔵と称えた。

七人頼朝



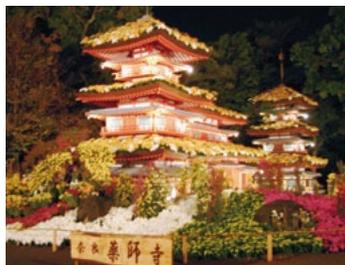
源頼朝は、源氏再興の祈願に神の助けを受けてからは、大層三嶋明神を崇敬し、毎年行われる四度の祭礼には「必ず参詣します」と誓われた。しかし、鎌倉からは道のりも遠く、その上使役される百姓の労も大きいので、伊豆国安久で由緒正しい七人の百姓を選び、三嶋明神の大祭には輪番で必ず代参するよう仰せつけられた。この代参には頼朝の名を称すことを許し、征夷大將軍の装束に左折金烏帽子を与えて、三嶋明神の神官から七度半の使いを受けて参詣したという。七人の頼朝は毎年輪番を違えず参詣を続けてきたが、後には三嶋明神近くに宿をとり形式だけになったという。

昔からこの代参の者を「よりとも」といわず「らいちょう」といっていて、通った道を「頼朝道」と呼んでいた。

（三島の昔話より）

三島花ごよみ

- | | |
|------------|--------------------|
| 1 月 ウメ | 龍澤寺、玉沢妙法華寺 |
| 2 月 コブシ | 祇園原線 |
| 3 月 サクラ | 三嶋大社
遺伝研通り、源兵衛川 |
| 4 月 ツツジ | 山中城跡公園 |
| 5 月 ハナミズキ | 若宮神社前通り |
| 6 月 アジサイ | 楽寿園 |
| 7 月 スイレン | 山中城跡公園 |
| 8 月 サルスベリ | 松本長伏公園通り
下田街道 |
| 9 月 キンモクセイ | 三嶋大社 |
| 10月 キク | 楽寿園 |
| 11月 イチョウ | 文教町通り、三石神社 |
| 12月 ロウバイ | 龍澤寺 |



せせらぎ事業イメージソング

水よ輝け

作曲 森田 公一
作詞 伊藤アキラ

一 水は ひとの心へ

時をつれて 流れつづけ

街の風を あざやかに

山の空を うつくしく染めた

* 水よ 輝け あたらしい街に

水よ 歌え 永遠のそらに

おまえが記した物語をゆつくりと読もう

おまえに預ける物語を私たちもつくる

二 水は ひとの暮らしへ

四季を写し 流れつづけ

夢を愛を さわやかに

包み育て いきいきと光る

水よ 輝け のびてゆく街に

水よ 輝け ふるさとの山に

おまえが記した物語をゆつくりと読もう

おまえに預ける物語を私たちもつくる

(*くりかえし)

基本コース

約2時間30分

- 1 三島駅南口
- ▼
- 2 楽寿園 (有料)
- ▼
- 3 源兵衛川
- ▼
- 4 佐野美術館 (有料)
- ▼
- 5 三嶋大社
- ▼
- 6 白滝公園
- ▼
- 7 三島駅南口

三島のご案内は 私たちにおまかせください。

三島のおもてなしは三島人の温かいまごころから

ガイド料金 無料

人数 2名様以上のグループ

ガイドの予約・お問い合わせは

〒411-0036 静岡県三島市一番町2-29

三島商工会議所4F

『三島市ふるさとガイドの会』まで

TEL・FAX 055-981-7057

ガイドの予約お取り次ぎ

三島市観光協会 TEL 055-971-5000

ガイドの予約

原則として、1週間前までにお申し込みください。



うなぎ・和食

- 1 うなぎの不二美 案内所に割引券あり
- 2 うなぎすみの坊 三嶋大社の四季を楽しみながら食事
- 3 うなぎすみの坊 土産用パックあり
- 4 和食・蒲焼 高田屋 旬の味・地場の香り
- 5 桜 家 老舗のこだわり
- 6 お食事処 源 氏 メニューが豊富
- 7 割烹・和風レストラン 呉 竹 お得なランチメニュー
- 8 割烹登喜和 三島の食材を使った和食
- 9 松韻・せせらぎ亭 味も景色もよし
- 10 味処 麦 人気の麦とろ定食

そば

- 11 飯 嶋 こだわりのそば処
- 12 手打そば 無限庵 コシのある手打そば

すし

- 13 あめや鮨 握り天心、鉄火天心
- 14 つばさ寿し本店 ネタに自信あり

レストラン・他

- 15 菜食・旬イタリアン Spice 三島の新鮮な野菜を使ったレストラン
- 16 ビストロ大木 超人気のオムライス
- 17 カフェレストラン セゾン グループの食事も嬉しい
- 18 中国広東料理抜天 フカひれスープをいかが
- 19 まえだ精肉店 肉屋のレストラン

三島まちなかグルメ

笑顔でもてなし
親切・サービス



JR三島駅南口



〒 郵便局

¥ 銀行

C コンビニ

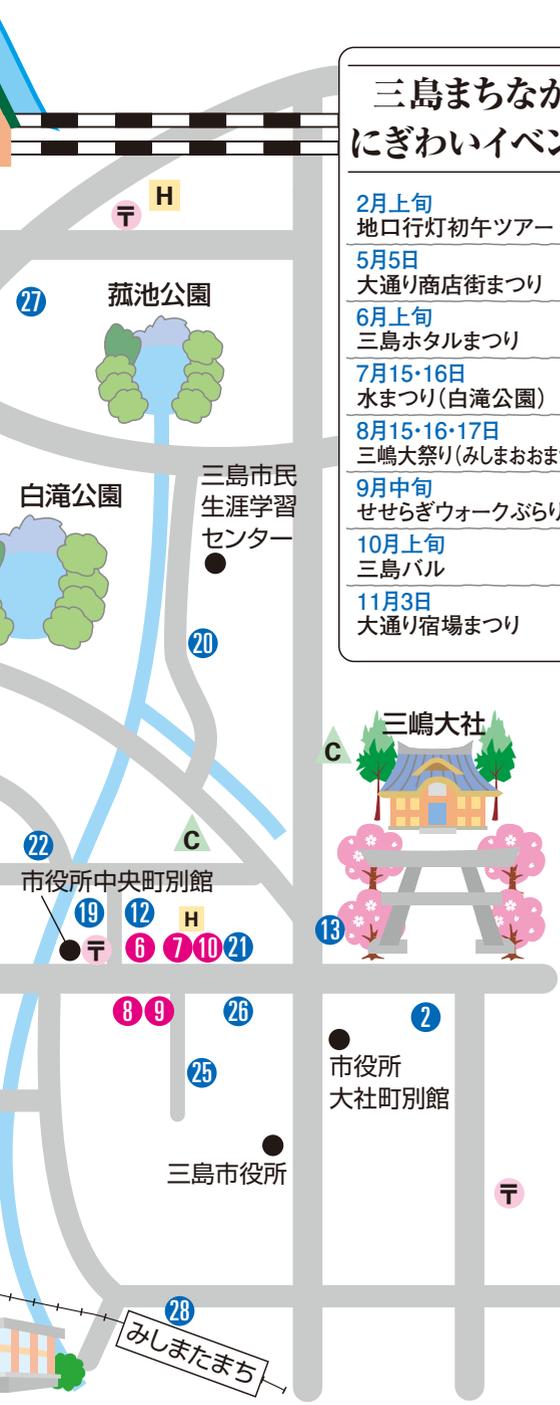
H ホテル・旅館

三島商工会議所

社会福祉会館

佐野美術館

アンド 買い物マップ



三嶋まちなかにぎわいイベント

- 2月上旬
地口行灯初午ツアー
- 5月5日
大通り商店街まつり
- 6月上旬
三嶋ホテルまつり
- 7月15・16日
水まつり(白滝公園)
- 8月15・16・17日
三嶋大祭り(みしまおまつり)
- 9月中旬
せせらぎウォークぶらり
- 10月上旬
三嶋バル
- 11月3日
大通り宿場まつり

喫茶

- 20 けやき茶寮 器心 甘党もコーヒー通も
- 21 上うなぎ 丸平 国の有形文化財でうなぎを
- 22 骨董喫茶 蓮 名水と器で飲む

お菓子屋

- 23 富岡屋本店 甘さ控えめクインクレープ
- 24 パティスリーララ 太宰治も訪れた店
- 25 甘味茶屋 水月 三嶋甘藷どら焼き
- 26 兎月園 銘菓「三嶋ざくら」
- 27 クリーム・ドクオーレ 三嶋ブランド認定のジェラート
- 28 若木洋菓子店 北田町店 クッキーで三嶋めぐり

お買物

- 1 アーリーデイズ 粋な雑貨と婦人服
- 2 八木呉服店 季節が愉しめます
- 3 山田園 名水に銘茶で一服
- 4 千歳屋化粧品店 街角の案内人
- 5 ハッピードラッグ さくらい 薬から美容まで
- 6 渡辺商会(電器) お庭を拝見!
- 7 森田金物店 荒物金物何でも揃う
- 8 熊沢糸店 手芸材料が豊富
- 9 野々山紙店 和紙の心を伝えます
- 10 ヤーコン舎 健康ブームで人気



交通のご案内

- JR東海道新幹線三島駅下車
東京駅より(こだま) 60分(ひかり)45分
名古屋より(こだま)110分(ひかり)75分
- JR東海道本線三島駅下車
- 東名沼津インターより
車で三島市街まで20分

—街中がせせらぎ—
三島ぶらり散策

発行日/2020(令和2)年3月
発行/三島市・三島商工会議所
編集/三島市ふるさとガイドの会
印刷/大和印刷(株)